

## 「ケアプラン」の価値

馬渡 徳子

前々号の「年金記録は人の生きてきた証 最終回」に登場した同居の義母が、今年 1 月中旬の経年のない豪雪時に脳出血で倒れた。

「どんなことがあっても、他法との年金調整が終了し、遺族年金が全額支給開始となる 2018 年 12 月に、元気でお祝いしよう！」と皆で約束していたのに、と家族待機室で、ソーシャルワーカーでもある自分を責めた。

しかしながら、手術終了後、執刀医の病状説明時の言葉に、前を向くことができた。

「凡そ、重篤な障がいが残ります。しかしながら、幸運でもありました。わずか週一回利用のデイサービスの最中に、職員の前で倒れるなんて。もしも、前日や翌日であれば、夕方仕事を終えて帰宅した方が、お母様のご遺体の発見者となったであろう程の出血量でした。また、『デイサービス先に救急時の搬送先を事前に指定』しておい

たこと、有事の救急搬送に備えて、『かかりつけ医による診療情報提供書と医療保険証の複写を更新し、デイサービスに預けていた』ことも奏功しました。このような手配をしておいたケアマネジャーさん、デイサービスの職員、ご家族のお手柄ですね。」

確かに、そうだった。当時の生活道路・幹線道路は、どこも、まるでモーグル競技のような状態で、救急車搬入・搬送が、非常に困難な状況が常態化していた。多くのデイサービス・デイケアは、どうしても必要という方だけの利用に限定している事業所が多かった。

駆け付けた義弟が、次のような言葉をかけてくれた。「義姉さん、本当にありがとう。百年分の親孝行をしてもらいました。義姉さんの勧めで、デイサービスに通わせてくれていたからこそ、助かりました。先生によると、かなり重度の機能障害が残る見込

みにて、どうか自己犠牲的に在宅で介護しなくてはならないと思いたまわないで欲しい。生きていてくれただけで、もう充分です。」

私の連れ合いを始め、駆け付けた家族が皆、泣きながら頷いていた。

救われた。家族待機室で、初めて、おいおいと子どものように涙が出た。

義母のケアマネジャーさんは、若い保健師さんだった。ケアプラン作成にあたり、一つだけお願いをしていた。

私たち夫婦には遠慮して決して言わないと思うので、ケアマネジャーとして、本人に敢えて訊いて、ケアプランに書き加えて欲しいことがある。

それは、この二つ。

①行ってみたいところ

②会っておきたい人

すると、

①外孫である次男の娘の福井国体の応援。

②50年以上会えていない出身地にいる妹。  
と応えた。

私たち夫婦は、がぜんやる気が出た。

「お母さん、ちょっと費用は嵩むけど、この願い、叶えてみせようじゃん!! ケアプランの目標を達成してみせようじゃん!! 」

私たち夫婦は、父を交通事故で亡くし、人生には突然の別れがあることを、身をもって知っている。

義母は、長男である私の連れ合いと供にこの目標を見事に達成した。そして、そのわずか二か月後に倒れたのである。

義母に、この質問をして下さり、ケアプランに載せて下さった保健師さんに、心より感謝申し上げますとともに、「ケアプランの価値を当事者主観で実感する」ことができた。